



ふるの まさし  
古野 正司さん(62歳) 愛西市石田町

## 自分達が安心して食べられるものを届ける

会社員として勤めながら産直で出荷を行っている古野正司さんは農業を始めて4年目です。昨年は5月から産直に出荷を始め、今年度はゴーヤやソラマメなど43種を出荷しました。今は16アールあるほ場で玉ねぎや春キャベツ、カブ等を栽培しています。

長年バドミントンを趣味にしていますが、膝の故障をきっかけに「新しい挑戦をしたい」と思い農業をはじめました。「はじめは、自分たちで食べる分を作るつもりで栽培を始めましたが、家族や知り合いの人においしいと言ってももらえるようになり、やりがいを感じるようになりました。数年続けていく中で、収穫できる量も増えてきたので、より多くの人に食べてもらえればと思い産直の出荷を始めました」。三人のお孫さんと一緒にラッカセイやサツマイモの収穫するのも楽しみの一つだと話します。自分たちが食べたいものを考え、農業を抑えた栽培にも挑戦しています。

現在会社員として働いている古野さんにとって特に大変なのが

作業時間の確保です。平日の日中は仕事をしているため農作業ができるのは帰宅後と休日に限られ、冬場は日も短く帰宅後の作業も難しくなります。産直への出荷は朝少し早く家を出て出勤前に行っており、前日の収穫や袋詰めなどの作業は奥様と協力しながら行っています。「夏場は害虫被害が多く、防除にはほ場の手入れや被害の確認など手間をかける必要があります。農薬を控えて栽培をしたいと思っていますが、産直での出荷を通して栽培の知識だけでなく、効率的な作業の方法や考え方など学ぶことがたくさんあると感じました」と古野さんは話します。

最後に「頑張ったもの、うまくできたものを出荷していくので、ぜひたくさんの人に食べてもらいたいです」とメッセージをいただきました。

